



SPRING HILL NEWS LETTER

翻訳言語
2454 言語
目指します



世界で翻訳されている作家について

子どもの頃の夏休みの宿題の定番といえば「読書感想文」。それがあつたせいか、または各出版社の文庫本のキャンペーンが始まるからなのか、はたまたその両方なのか、理由は定かではありませんが、夏のイメージはアクティブな一面がある一方で、「読書」のイメージもあります。今回のテーマはそんな読書についてのお話を。名古屋市内にも大きな本屋さんが増え、国内の作家だけでなく、世界の作家の原書・翻訳本も数多く手に入るようになりました。2017年にノーベル文学賞を受賞した長崎県出身の日系イギリス人小説家「カズオ・イシグロ」さんを始め、様々な国の作家の本も気軽に読むことができます。そんな状況の中、ふと日本の作家の本がどれくらい海外で読まれているかと気になりました。「最も海外で翻訳されている日本の現代作家は？」というと村上春樹さん。日本でも大ベストセラーになった『ノルウェイの森』は、世界36ヶ国で翻訳されているそうです。スペインではスペイン語だけでなく、カタルーニャ語でも翻訳されているようです。ノーベル文学賞の候補に挙げられる理由は、それだけ様々な国で読まれているからでしょうか。ちなみに世界で一番翻訳されている本は「聖書」です。2,454言語に翻訳されているとのことですが、こんなに言語があるんですね。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

編集長「梶田」のつぶやき・・・

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

数か月前なんですけど、知人と焼き鳥屋に行ったんですね。(会社の隣の鳥貴族ではないよ)

焼き鳥の「つくね+卵黄」に思う事・・・

最近、私、リュック背負ってるんです。いつでも仕事できるようにPC入れたりして。っで、その店、超～狭くって(悪口じゃないよ)、バーのカウンターのイスみたいなの下に「カバン入れ」があるんだけど、当然リュックが入るわけもなく、通路に置いてたらすごく迷惑そうにされた(じゃあどこ置くの?) そんな店での出来事なんですけど、何か割と美味しいらしく、希少部位がいくつか出てきたりしたんですね。まあ確かに美味しかったんですけど、大将が「これはね～、スーパーで300gで売ってるところでもホントに少ししかない部位でねー」とかなんとか言っちゃって、まあそれは良いんですけど、その大将に「おススメありますか?」って聞いたんですね。これウザイですかね? 私、結構聞いちゃうタイプなんですよ。っで、いらないけど断れなくなって、「じ、じゃあ、それください・・・」って結構なるんですが・・・。でですね、その回答が「つくね」だったんですよ。なんかしっかり作ってるっぽくって、竹でできた太マッキーくらいの大きさのモノに型取られて出てきたんですね、ヘラみたいなのと一緒に。そして、あとは卵黄も。まあたまにある、卵黄付けて食べるパターンですね。そして食べたんですよ。まあ美味しいですよ。そしたら一緒に行ったやつが「これマジ旨いよね～。卵黄考えたやつマジ天才!」との事。



大いなる先人の犠牲を胸に・・・伝えるべき事

・・・は?・・・何が?って思いませんか? 「本当にすごいのはそいつではないよ」って・・・。私ね、フグって特に好みではないんですね(味しないし)。でもね、フグって「いくつものチャレンジャーによる無念」から成り立ってる食べ物じゃないですか? まず、「おっ、なんだこの丸っこいのは? しぼんできたぞ。」って発見され。「よし食べてみよう!」ってなって、偉大な先人が一人お亡くなりになり、次に「なんかあったぞ。毒か? 毒はどこだ? ここか?」って感じで2人目の犠牲が・・・。っで、そんなのを何だかんだ繰り返して「毒はココ」みたいなとこにたどり着いたわけですよ? こっちの方が全然すごくないですか? ってか、むしろ納豆もね。マメ置いといたら腐って、すんげー臭うけど食べちゃったんですよ? 「おい、何か伸びるぞ」って感じで。何と言うか、腐って臭い伸びるマメよく食べましたよね? 食べれますか? 「もしかしたらこの腐った豆、ご飯に載せて食べたら旨いかもしれない」ってほんのちょっぴりでも思いますか? ・・・って感じで話してたら「おっ、あー、そうだよ。フグ・・・すごいよね・・・。」ってなりました。勝った! (何に?) でも、何でフグそこまでして食べたんですかね?